

実施計画事業名		水産資源管理事業			評価対象年度	平成 23 年度		
評価担当部署		建設産業部 水産商工課			課長(主幹)名	畑 均		
総合計画体系	分野	5	産業振興					
	政策	1	自然を活用した産業の体質強化					
	施策	1	安全で良質な水産物の供給に努めます					
	関連施策							
現状と課題	近年、漁獲量が増加し資源減少が懸念されるナマコのほか、ウニ等の資源維持増大が求められている。また、沿岸海域に来遊するトドによる沿岸漁業への被害が後を絶たず、漁業経営を圧迫している状況にある。							
目的	資源と漁場に見合った効率的な生産体制の確立							
施策展開の	<ul style="list-style-type: none"> 人工種苗購入等への補助 さけ、ます増殖事業協会に対する負担金 ナマコの量産化に向けた支援 業務委託によるトド駆除 							
成果指標	名称		単位		22 年度	23 年度	25 年度	
	ナマコ、ウニの水揚高		トン	目標	569	569	569	
	説明	稚内市内で水揚げされたナマコとウニの合計重量			実績	508	536	
活動指標	名称		単位		22 年度	23 年度	25 年度	
	ウニ放流数		千粒	目標	500	500	500	
		説明	市が補助を行い各漁業協同組合が放流を行なった幼ウニの数			実績	400	400
	さけ・ます放流数		千尾	目標	6,000	6,000	6,000	
		説明	市が負担した事業によりふ化放流した稚魚の数			実績	7,000	8,000
	トド駆除出動回数		回	目標	8	8	8	
		説明	市が実施するトド駆除の出動回数			実績	8	8
			目標	-	-	-		
	説明				実績			
事業費の実績		単位	22 年度 (決算)	23 年度 (評価年度決算見込)	24 年度 (予算)	備考		
	直接事業費(A)		千円	4,010	4,487	4,715		
	国庫支出金		千円	0	0	0		
	道支出金		千円	400	400	503		
	起債		千円	0	0	0		
	その他		千円	0	0	0		
	一般財源		千円	3,610	4,087	4,212		
	この事業にかかる職員数		人/年	0.40	0.88	0.88		
人件費(B)		千円	2,716	6,120	6,120			
計(A+B)		千円	6,726	10,607	10,835			
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化							

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	a a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する> ナマコ等は、東日本大震災による風評被害等の影響により中国輸出が伸びず、生産量が減少した。放流にあっては、予定どおり実施できた。
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
コ ス ト 効 率	各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	A 概ね問題なし
	<A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 資源育成事業については、豊かな水産資源を活かし次の世代に繋げていくための事業であることから、今後も重点的に進めていく。

【2次評価】

成 果	a	細事業の構成	a	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総 合 評 価	A 概ね問題なし <2次評価者の視点からコメントを記入する> 1次評価のとおりとする。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--